

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社 いちにいさん
施設名	紫山いちにいさん保育園
報告者（役職）	千葉 亨（園長）
住所・連絡先	宮城県仙台市泉区紫山4丁目20-2
	☎ 022-378-7799
	E-mail Info@m123-h.com

○タイトル（保育計画）

野菜をいっぱい育てたい！

○主な助成備品

畑の土地の拡大、整備（土留工事、配管調整工事等）

1. 保育計画策定の目的

当園は、園児60名の認可保育園です。

「自然に親しみ、自然の中で思いっきり遊ぶことで、自然への興味関心を育て豊かな心情や思考力を培うこと、様々な体験を通して豊かな感情を育て創造の芽を培うこと」を方針として、保育を行っています。園の前には大きな公園があり、走りまわったり、季節の木々や動植物の移り変わりを身近で体験できるように屋外の活動も積極的に保育の中に取り入れています。就労中の保護者に代わって子どもたちに様々な体験や経験をしてもらいたいと考え、開園当初より、30㎡ほどの畑を整備してさつま芋の栽培と、園庭でプランターミニトマトの栽培を行っておりました。園児が10名程度入るといっぱいになってしまうほどの小さい畑であり、今回は全園児が安全に土に触れる機会を十分に持つことが可能になることを期待し、畑の土地を拡大し、畑を拡張すること、安全に土いじりができる環境整備を計画しました。

2. 具体的な実施内容

【野菜の栽培】

3・4・5才児が中心となって活動を行いました。

さつま芋の苗も例年同様に植えることにしていましたが、子どもたちと相談し他にも「ナス・オクラ・パプリカ・ピーマン・ミニトマト」の5種類の野菜の苗を植えることにしました。収穫した野菜は、給食のカレーにトッピングしてもらい、「夏野菜のカレー」を作ることを目標に決めました。

5月に3・4・5才児が畑にオクラ・パプリカ・ナス・ピーマン・ミニトマトの苗を植えました。3クラスの21人が苗植えを行ないました。苗の持ちかたや、植え方について担任からの説明を受け、楽しそうに苗を植え「おおきくなりますように！」とみんなでおまじないする姿も見られました。



土いじりや手が汚れることが苦手だったり、初めて体験する子どもに対しては保育士と一緒にいき、少しでも参加できるように支援しました。

自分たちが植えた野菜の苗には、各クラスで作成した野菜の塗り絵をした看板を立てました。



苗への水やりは、毎日のお当番の仕事と決めて天気の良い日には、毎日じょうろで水やりを行いました。

苗の様子については、お当番から成長の様子が各クラスに伝えられ、散歩の前後にはみんなで畑を通して野菜の生育、花の色や実の付き方を見ては口々に嬉しそうに話す姿がみられました。各クラスに図鑑を用意して、野菜を調べられるように環境作りを行いました。



3才未満児もお散歩の前後に畑を見て苗の成長を見たり、野菜や果物の名前が登場する手遊びや絵本等で野菜や果物等に触れることで興味を持てるように関わりをもちました。

6月には、さつま芋を3・4・5才児合同で植えました。

【 収穫 】

夏野菜が実り始めると、ハサミをつかい上手に収穫をし、喜ぶ姿が見られました。

ナスやオクラの茎にとげがあることや、オクラは上向きに実がなること、パプリカの色が緑から赤や黄色に変わること等、野菜を育て収穫することで学びました。そして自分が

体験したことを他クラスの先生や子どもたち、保護者に積極的に伝える姿も見られました。

お当番の園児は、自分で収穫した野菜を給食室に持って行き、栄養士や調理員に「お野菜お願いします。」と声がけする姿も見られました。ミニトマトは給食の付け合わせに、ナスはお味噌汁や炒め物として提供され、3・4・5才児の園児全員が順番に収穫することができました。



【 秋の収穫 】

さつまいもは、例年40本程度の収穫となっていましたが、今年は下の写真のような立派なさつまいもを134本収穫することができました。収穫したさつまいもは、玄関ホールに飾り、送迎の際に保護者にも目で見てもらい、3才以上児がクッキング保育でさつまいも汁を作り、おやつで全園児や職員にふるまい、収穫の喜びを共有することができました。

他にもさつまいもは一人一本自宅に持ち帰り「自宅でふかし芋にして食べた」「お母さんとスイートポテトを作った」などと自宅でも楽しんだ様子を聞き取ることができました。



育ちすぎて大きくなってしまったオクラやパプリカは、野菜スタンプとして活用することで、3才未満児にも野菜に触れる機会を提供することができました。

その他にも、3才児は育てた野菜のちぎり絵を製作しました。



3. その成果と評価

大きくなった畑を見て子どもたちは大喜びで目を輝かせていました。

植物の生育に触れ、野菜が実をつけ収穫する喜びを体験し感じることで、子どもたちはまた一つ成長したように感じられました。

土いじりが苦手だった子どもも、今回経験したことで散歩の時に季節の花々や虫を見つけ、嬉しそうにお友だちや先生に知らせる姿も見られました。

活動的内容的に3才以上児が中心となっていました。3才未満児の子どもたちも降園する際に保護者と一緒に畑を覗いては、「大きくなったね」「黄色い花があった」等と野菜の収穫を楽しみにする姿も多く見られました。

また、0・1・2才児には、野菜スタンプという形で野菜の感触を楽しみ、おままごと等を通して身近なものに見立てたり、ごっこ遊びのなかで子ども同士や保育士との会話をふくらませることができました。

3・4・5才児は、野菜栽培を通して、土や虫に触ることが苦手だった子も積極的に触ることができる等、たくましくなり遊びも大胆になってきました。お散歩の途中で虫を捕まえる、休日に保護者と一緒に捕まえた虫や沢蟹、せみ等を捕まえて飼育ケースに入れて持ってくる等、遊びも大胆でたくましくなりました。

野菜が苦手な子どもが多く、一口二口食べることが精いっぱいだった子どもたちは、自分で育てた野菜ということもあり苦手でも食べられるようになり、給食の残食が減り担任も栄養士も保護者も驚いています。

トマトやオクラにパプリカという苦手な子どもが多い野菜ではありましたが、生長していく過程はみんな興味を持ち、各クラスでは植物図鑑の生育過程を見ては今の段階を担当に確認する積極的な姿も見られました。

子どもたちが実際に考え、主体的に体験して考え感じることの大切さ、保育者もさりげない環境作りの大切さも改めて感じることができました。

4. 今後の課題と展望

今回の環境に満足することなく、子どもたちと一緒にワクワクできる体験ができるよう今後も畑を有効に活用していきたいです。

今回のように子どもが中心となり、育てるものから決めて園芸活動を今後も継続していきたいです。0・1・2才児は、プランターを活用した野菜の栽培や収穫は月齢に配慮して関わりを持つことは可能と考えられます。3才未満児の畑への関わりについては、課題が残ります。

今後も、子どもたちと保育士が一緒になって感じ、考え楽しめるような活動を行っていきたいと考えています。

以上